

・設定した目標に対する達成率に応じて選択
 100%以上:◎、70%以上100%未満:○、50%以上70%未満:△、50%

R元年度(2019年度)実績				R2年度(2020年度)実績					
実施内容	目標達成状況・自己評価	達成 度合	課題 (目標の達成状況に関する理由や原因等)	課題に対する改善策 (R2(2020)年度以降)	実施内容	目標達成状況・自己評価	達成 度合	課題 (目標の達成状況に関する理由や原因等)	課題に対する改善策 (R3(2021)年度以降)
今年度から介護予防健診を全てのサロンで年1回実施し、次年度以降経年評価ができるようにする。サロンリーダー報告会で開催頻度を上げることが運動効果につながる事を説明。	全サロンで実施できた。 H31年度当初サロン開催回数は月2回が6か所、月1回が6か所であったが、H31年夏頃から月2回が8か所、月1回が4か所に開催頻度が上がった。	◎	更なる開催頻度アップを目指し、サロン後方支援事業を実施する。	サロン参加者に運動効果を確認していただき、引き続き開催頻度を高めるべく、サロン後方支援事業を効果的に進める。	介護予防健診を平成30年度から全サロンで年1回実施し経年評価する。 令和元年度はサロン未実施行政区でも実施する。	目標達成	◎	なし	なし
薬剤師アドバイザーを複数体制にする。 当初アドバイザーを依頼した調剤薬局の薬剤師から町内の調剤薬局の薬剤師に声をかけていただき、複数体制とする。	薬剤師アドバイザーは令和2年2月から2つの薬局で交代制とした。	◎	なし	なし	薬剤師アドバイザーを2人体制とする	目標達成	◎	なし	なし
かしまつが初版をH31年度各種会議で配布。議員研修にも採用された。社会資源の把握はできたが、不足する資源についての検討が必要。 ①通いの場までの近距離の送迎をサロンリーダーの善意に頼っている。 ②総合事業の生活支援のヘルパー派遣を介護保険事業所に断られるケースが多発。	①事故の際の社協の保険を紹介。移送サービスを町直営では出来ない。町では75歳以上の方にバスタクシー券を年1万円分交付している。 ②現行相当の訪問介護の報酬単価を介護と同額としている為、これまで受け手もあったが、近年ヘルパー不足により、支援の人は断られるケースが頻発。20件打診して1件見つかる程度。国が市町村に移譲した時点で、市町村によっては支援の方の通所訪問サービスがなくなった所もある。	○	不足する資源の把握ができた。	次年度以降ワンコインの有償ボランティア(訪問系)を検討予定	生活支援体制整備事業でゴミ捨て問題について検討する。	町内全ゴミステーションの調査を行い、協議体や地域で改善に向けた協議を実施した。	◎	なし	なし
3 認知症サポーター養成数の延伸のため広報誌で企業向けに開催を呼びかける。初の試みで役場の職員研修として認知症サポーター養成講座を実施。 5 認知症カフェでミニ講座として認知症家族のDVD視聴をした。	3 認知症サポーター企業向け第1弾として、町職員研修として開催。また、企業が開催する場合支援する旨広報3月号に掲載。 5 認知症カフェ1月にミニ講座として認知症家族のDVD視聴をした。	◎	3 認知症サポーター養成数と国県の示す人口の1/5の目標値との乖離が依然としてある。 5 認知症カフェ参加者数は依然として伸び悩んでいる。	3 令和2年3月広報で企業向けに呼びかけたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在のところ反応なし。 5 認知症カフェチラシを7月負担割合証に同封して郵送。	認知症サポーター養成講座を実施、養成者数を伸ばす。	・民協、町内歯科医院、高齢者相談員向け実施。 ・キャラバンメイト養成講座を実施。	◎	コロナ禍で養成講座実施の呼びかけが難しい。	今後も養成講座実施の呼びかけを行う。

